

浪曲の世界 ちょっとかじると聞き上手になる

浪曲師 玉川 奈々福

浪曲師の玉川奈々福です。佐倉市国際文化大学ではいろいろな講座を実施されており、時に演芸も混ぜていただき桂小すみ師匠がいらっしゃったとも伺いましたが、浪曲は初めてではないかと思いません。短い時間ではありますが、浪曲の歴史や基礎知識そして実演を楽しんでいただきながら、今後も浪曲を楽しんでいただければと思っております。どうぞお付き合いくださいませ。

ちょっと知識があれば10倍面白い

いつもはとにかく実演を皆さんに聞いていただき笑っていただいて泣いていただいて、じゃあさようならって言うんですけど、今日は講座で学校の勉強のように浪曲というものを皆さんに理解していただきたいので、なんかすごい偉そうなレジメを用意しました。講義でございますよ。「浪曲の世界ちょっとかじると聞き上手」ここなんです。何の予備知識もなく聞いていただいても、いろんな工夫をしておりますので面白く聞いていただけますが、ちょっと浪曲の知識があつて聞くと、もう面白さが10倍ぐらいになります。今日は皆様にちょっと聞きかじった知識を入れてもらった上で実演を聞いていただきます。そうすると実演がものすごく面白くなります。

日本の三大話芸：落語、講談、浪曲

世の中に日本の三大話芸と言われているものがございます。落語、講談、浪曲とこの3つです。落語は皆さん聞いていただく機会が一番多いものだと思うんです。何せ日曜日の夕方に「笑点」というお化け番組がございます。あれで皆さんまずは落語ってこういうようなものだろうという、なんとなく安心感がありますね。それから講談という芸があります。神田伯山さんという大変な売れっ子が出てきて、一気に認知度が上がりました。やはり物語を語る芸です。落語は高座の上に座布団を敷いて1人で語る。講談は座布団の前に積台という小さいテーブルを置きまして、張り扇という小さい扇を持ってパンパンパンパンとその積台を打ちながら調子を取って、例えば平家物語、太平記などの軍記物を語るころから始まったという語り芸です。

落語、講談にはない美しいセットと2人の芸

そしてもう1つが浪曲です。まず、見た目が、舞台セットが違います。演台があります。そしてこの横に、玉川奈々福賛江と描かれた布のかかった、ただ湯のみを置くだけの台がございます。後ろには流派の紋を入れた背掛けがあります。私は玉川を名乗っており、剣片喰という玉川の紋が描かれています。こういうなんか大げさじゃないかと思われるところに立って演じるのが浪曲です。まず、この布が美しいでしょ？ 落語はただ座ってるだけ、講談もただテーブルを置いてるだけなのに対して、この美しい布を掛けるというお客様へのサービス度が違います。入ってきた時にああ綺麗だなと思うこの布、業界用語で「テーブル掛け」と申します。お客様からお贈りいただくものなんです。感心してる場合じゃありません。お客様から贈っていただくもので、随時募集をしております。これは塩瀬という帯にもなるような絹の布に直接絵師さんに描いてもらってるんです。この絵は、

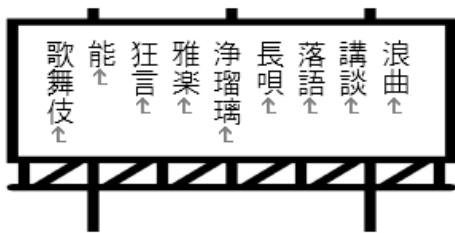


依頼当時は無名だったのに、今や世界的な作家になられた深堀隆介さんの作品です。彼は、金魚しか描かないんです。私は金魚のテーブル掛けが欲しかったので、この人しかいないと思ってこれを描いてもらった時と今では値段が10倍違う！早くに天才を発見した自分の眼力を褒めたいと思うわけです。

もう1つ。落語、講談と違いますのは、1人の芸ではありません。お三味線と2人の芸。お三味線は沢村まみです。

今日は講義なのでホワイトボードを使ったりしますが、ワークショップもあります。皆さん、のんびり聞いているだけじゃ済みませんからね。ちゃんと声を出して参加していただきますから、覚悟を持って聞いていただきたいと思っております。

一. 日本の伝統芸能における浪曲の位置取り



ここで皆さんに質問です。日本の伝統芸能と言われた時に知ってるものをあげてください。はい、歌舞伎ですね。後は？ 能、狂言。他には？ 雅楽、素晴らしい。浄瑠璃、書けるかな、書けました。はい、長唄。一応ここに落語、講談、浪曲と書きますね。忘れられては困るので。私とまみさんは年に何回か小学校に行くんです。5年生とか6年生に、皆さん日本

の伝統芸能知ってますか、あげてみてくださいって言うと大体これらがあがります。小学生でも知っている。あと小学生の発想はとても自由なので、盆踊りとか、書道とか、華道とか、水芸、大神楽ね。皆さん小学生に負けてちゃダメですよ。それぐらいいろんなものが出てくるんですけど、でもまあ今あげただけで9個あります。浄瑠璃って出ましたけれども、小学校の教科書に文楽、人形浄瑠璃とか載ってるそうです。ちょっと専門的になりますけれども、いろんな浄瑠璃があって、人形浄瑠璃に使われるのは義太夫節なんですね。それから、常磐津とか清元、新内っていうのもありますね。聞いてみると全然違うけれども、一応同じ浄瑠璃です。すごいですね皆さん、日本の伝統芸能を見渡した中で浪曲を語るっていう壮大な講義なんですよ、今日の講義は。

聞く芸能～日本人は幻視の民族

ここまで一応並べたところで、この中で一番派手なのはどれですか？ 歌舞伎ですよ。動きもあれば衣装も派手だし、歌舞伎が一番見て楽しいですね。あと雅楽も衣装はすごく立派で、歴史もすごく古いですよね。五感で楽しむ時に、やっぱり芸能は見ると聞くっていうのが主になりますね。歌舞伎や雅楽は見る方も楽しい。お能も、衣装がすごい立派で見るのが楽しいですよ。ただしお能は衣装綺麗だけど、この人たちあんまり動きませんね(笑)。実は、日本の芸能の中で「見て楽しむ」か「聞いて楽しむか」っていうことを考えた場合、聞く芸能がすごく多いんです。もちろん私たちも今日はまみちゃんも私も衣装を着てますけれども、じゃあ派手に動くかっていうと動かなくて、とにかく物語を語って聞いてもらう芸です。物語を聞く芸というのは、講談もそうですが、浪曲もそうです。落語ももちろんそうです。浄瑠璃も全部そうですね。お能も動きもあるんですけども、主にはストーリー性のあるものを語る芸です。今は時代的に目で楽しむエンターテインメントが優位になっている気がしますが、日本人というのは本来耳の民族だったんじゃないかなと思います。私はこの後浪曲一席をここで立て演じます。私が上手に語れば、皆さんの頭の中に、物語の風景がわあっと浮かんでくると思うんですね。日本人は、耳から入った情報によって想像力で脳内に場面を描くイメージーション力が非常に豊かな、幻視がすごく得意な民族じゃないかなと思っております。これが、日本の伝統芸能を見渡した時の耳の芸能の系譜と思っております。

ここで長唄と浄瑠璃の違いを言いますね。日本の聞く芸能の中には「歌い物」と「語り物」があり、長唄は「歌い物」の方なんです。あくまでもミュージックである。この「歌い物」の中には、他に端唄とか都々逸とか宮園節とかいろいろあります。じゃあ「語り物」って何があるかという、今まで出たものの中で言うと、浪曲と浄瑠璃です。落語や講談は入らないんです。なぜかという楽器がつ

いてないから。日本の「語り物」という時は楽器付きの物語を語る芸のことを言います。古くは平家物語を語っていた平家琵琶、あれが「語り物」の元祖かもしれませんね。



古くからある能、狂言～600年以上の歴史

じゃあ、能、狂言、浄瑠璃、落語、講談、浪曲の中で古いのはどれでしょう？ あてずっぽうでいいですよ。はい、浄瑠璃ですか？ 浄瑠璃は江戸時代です。狂言は室町時代です。実はお能が一番古いですね。600年以上の歴史があるとされています。昔は猿楽と言っていたそうですね。世阿弥とその父の観阿弥は室町幕府の三代将軍義満公にかわいがられたそうですから、古い古い。それよりも前に大陸や半島から伝わった芸能をルーツとするかによって数え方が違いますけれども、世阿弥と観阿弥が今の能の祖とするのであれば、600年以上の歴史があります。昔は能は、朝から晩まで1日中やったそうなんです。その能と能との間に狂言を入れた。狂言は能ができた後に生まれ500年以上の歴史があるとされています。能って幽霊が出てきたり亡くなった武将が出てきたりとか、結構怖い重いものが多いじゃないですか。間に笑い、軽い動きのあるものを入れて、能をやって狂言やって、能をやって狂言やってと朝から晩までやってたんですって。

三味線の登場で一気に豊かになった日本の伝統音楽

そして江戸時代になってから浄瑠璃が数々生まれましたそうです。室町時代から戦国時代にかけて堺の港に三味線の元となる小さな三味線、蛇の皮のあの三線が沖縄から入った。元々は大陸から沖縄に伝わって、沖縄から堺の町に入った。堺は本当にグローバルな街だったので、商人や目の見えない検校という人たちがいろんな形に改良していった。その結果、三味線の種類がいっぱいあるんですよ。まみちゃんが持っているのは一番大きい太棹という三味線です。一番小さいのが沖縄の三線。音もすごく違えば道具もいろいろ違います。この三味線が生まれたことで日本の音楽がものすごく豊かになります。浄瑠璃の種類がいっぱい生まれます。それより前に生まれた能や狂言は三味線を使っていません。太鼓や笛。この時代以降の芸能が、三味線を使うようになった。



講談は戦国時代、落語は江戸時代生まれ

落語、講談はいつ生まれたのかというと、講談は戦国時代にお武家の間から生まれたそうです。戦国時代ですから大名たちが争います。争って片方が勝って片方が負けます。負けた方の武将の全員が死ぬわけではありません。負けた方の武将は身の振り方を考え、リクルート活動を始めます。リクルート活動では、私はこのような武器を持っている、私はあの時このような武功をあげた、このような働きをする、私を雇うとこのような良いことがあると自分をアピールする。それが講談の元となったと講談の先生が言ってます。ただし、講談の先生も嘘つきなので、これが全く本当かどうかは分かりません。落語はもうちょっと時代が下がりまして、江戸時代です。江戸時代の江戸や大坂といった大きな都市の商人や職人さんなどの一般的な市民たちの間の笑い話、落とし噺が元になってできたのが落語です。

二. 浪曲とはどんな藝か 歴史的に

実は日本の語り芸の中で最新形であるのが浪曲。浪曲なんて古臭いと思ってたでしょう。実は最近なんです。最近たって150年くらい前、明治になってからです。さあ、ここから浪曲の歴史を聞いていただきたいと思います。

伝統芸能ガラパゴス 日本

今は浪曲といますけど、昔は浪花節といました。浪花節というと皆さんあんまりいいイメージ抱かないですね。あの社長は浪花節だからさって、なんか古臭い義理人情を優先するようなやつみたいなイメージ。そういうイメージと、私は30年戦っております。浪花節というと、なんか古臭い、おじいさんが青筋立ててるもの、そういうイメージを持っている人が多いみたいで。で、この浪花

節がどういう風にして生まれたか。さっき落語、講談、浪曲が日本の3大話芸って申しました。なんで3つもあるのかな？ そのほかに浄瑠璃もあるし、それらが日本の長い歴史のどこかで融合しちゃったり、何かが潰れて新しいのが生まれたりしてもいいんじゃないかなと思うんですけど、昔から落語は落語の歴史、継承者がいて、講談は講談、浪曲は浪曲、浄瑠璃は浄瑠璃と、融合せずにそのまま継承されて残っている。

私は数年前、文化庁の文化交流使というのになりました、ヨーロッパ5カ国（スロベニア、イタリア、ハンガリー、オーストリア、ポーランド）と中央アジア2カ国（キルギス、ウズベキスタン）へ行き公演しました。それとは別に、韓国、中国、アメリカでも公演したことがあります。ヨーロッパに行った時には、ヨーロッパは歴史がいっぱいある国なので、伝統芸能もいろいろあるんじゃないかなって期待して行ったんですよ。ローマの国際交流基金とか日本の大使館に行って、「イタリアのいろんな伝統芸能を見たいんですけど」って言ったら、「あそこでオペラやってますよ」、「いや、オペラはフランスにもイギリスにもドイツにもロシアにもあります」、「あ、バレエやってますよ」、「バレエもイギリスにもイタリアにもアメリカにもドイツにもあります。イタリアオリジナルの伝統芸能が見たいんですけど」って言ったら、「ええ？」って言って腕組んで考えちゃって出てこなかったんです。ハンガリーに行っても、スロベニアに行っても、ポーランドに行ってもそうだった。ヨーロッパの国は、昔は昔の伝統芸能があったんだけど、新しいものが生まれると上書きしちゃってなくなっちゃうんですって。どんどん新しいものが生まれるんだけど、古いものを古いまま継承して保存するっていうことがない。そういう意味では日本は異常で、伝統芸能ガラパゴスっていうことを日本人はあんまり知らない。アメリカは元々歴史が浅い国だから、伝統芸能ってあんまりないですよ。中国にはありました。いっぱい伝統芸能があったんだけど、中国って国がすごく大きくて、地域地域で言葉、方言が違いますよね。その方言でやってるものしかない。さっき、小学生に日本の伝統芸能何がありますかって聞いたら、もう迷いもなく10以上あがると言いましたけれども、例えば北京や上海で中国の伝統芸能何がありますかって聞くと、中国人みんなの共通認識としてあがるのは京劇ぐらいしかない。地域地域では、日本で言えば神楽みたいな感じで地域の民族芸能としては残されてるけれども、国民に共通認識として共有されてはいないんですよ。日本って本当に不思議な国だなと思うんです。



鎌倉時代の新仏教～語り芸のゆりかご

話は日本に戻って。落語、講談、浪曲、これが日本の3大話芸と言いましたけれども、元々こういう多種類の語り芸がなぜ生まれたのかについての私の仮説です。仏教における説法が、語り芸が盛んになる源になったのではないかと思います。仏教が日本に伝来したのは500年代と大変古いんですけども、それから平安時代までは国家鎮護の宗教とされてました。国家的に信仰され、国の力で寺が建ち、お坊さんたちが応援されていて、あくまでも国を守り国の発展を願うための宗教であった。ところが武士の世の中になりました。鎌倉時代になって、鎌倉新仏教っていっぱい生まれましたでしょ。何がありましたっけ？ 道元さんの曹洞宗、栄西さんの臨済宗、それから親鸞さんの浄土真宗、日蓮さんの日蓮宗、一遍さんの時宗。いっぱい生まれましたよね。なぜかという、仏教が平安貴族というパトロンを失い、民衆の方を向いたからだと思っています。初めて仏教が民衆の方を向いた時、当時目に一丁字もない民衆に仏の教えを伝えるには言葉、生きてる言葉、語りしかなかった。ここが日本の語り芸のゆりかごなんじゃないかなと思うんです。

説教の芸能化～大道芸

京都で応仁の乱という大変な災難がありました。寺が焼け、焼け出されたお坊さんたちが、木魚や仏具、錫杖なんかを持って表に出て行って、道端で仏の教えを語るわけですよ。語る時に、お坊さんもみんなから受けて笑ってもらおうと楽しいでしょ？ だから受けるように受けるように、お説教が芸能化していくんですね。浪曲のご先祖というのは、そういう坊主崩れの人たちや修験道の山伏たちが、法螺貝、錫杖、木魚などを打ち鳴らしながら、道で物語を語っていた。その大道芸、江戸時代にはちよぼくれとかちよんがれ、あほだら経とか説経祭文と呼ばれていたものたちがご先祖です。



大道芸の禁止と浪曲の誕生

そういう人たちが大同団結せざるを得ない時代が明治時代になってきた。というのは、明治初期に政府が大道芸を禁止したんです。西洋に対して恥づかしいということだったのかなあ。混浴も禁止されたんです。修験道も、まがい物の宗教扱いされて禁止になった。大道芸で食べてた人たちは食い扶持がなくなり困っちゃう。ええどうしよう、どうしようって言った時に偉い人が、あんたたち大同団結して組合を作ったら芸人鑑札をあげる。この芸人鑑札があれば芸能活動ができるようにしてあげるよと言われて、大同団結して組合を作って浪花節というのを作ったんですね。なので、浪花節というのができたのは明治の初期で、いろんな雑芸の芸人が集まったものなので地域によって芸の雰囲気は全然違います。今でも浪曲の中には、関東節と関西節というのがあるんですけども、趣きがいぶ違います。元々が大道芸だったから暑苦しい声を出すんですね。大きい声を出して遠くの人にも聞こえるように。大道芸ですから、その日の稼ぎは投げ銭にかかっているわけですよ。道行く人たちの足を、なんか声が聞こえるちょっと行ってみようって声で足を止めさせる。そして、しばし物語を聞いてもらう。立ち止まった人たちを物語に引き込んで、上手いねいい声だねと懐から財布を出させて銭を投げてもらう。技術の限りを尽くして声の限りを尽くして、今日の食い扶持を稼ぐ。大変なことです。そういう芸の、わたくしどもは末裔です。これが浪曲の歴史でして、こういう芸の末裔であるからこそ、私どもは今に至るまで一生懸命大きい声を出して芸を演じるわけです。



ええどうしよう、どうしようって言った時に偉い人が、あんたたち大同団結して組合を作ったら芸人鑑札をあげる。この芸人鑑札があれば芸能活動ができるようにしてあげるよと言われて、大同団結して組合を作って浪花節というのを作ったんですね。なので、浪花節というのができたのは明治の初期で、いろんな雑芸の芸人が集まったものなので地域によって芸の雰囲気は全然違います。今でも浪曲の中には、関東節と関西節というのがあるんですけども、趣きがいぶ違います。元々が大道芸だったから暑苦しい声を出すんですね。大きい声を出して遠くの人にも聞こえるように。大道芸ですから、その日の稼ぎは投げ銭にかかっているわけですよ。道行く人たちの足を、なんか声が聞こえるちょっと行ってみようって声で足を止めさせる。そして、しばし物語を聞いてもらう。立ち止まった人たちを物語に引き込んで、上手いねいい声だねと懐から財布を出させて銭を投げてもらう。技術の限りを尽くして声の限りを尽くして、今日の食い扶持を稼ぐ。大変なことです。そういう芸の、わたくしどもは末裔です。これが浪曲の歴史でして、こういう芸の末裔であるからこそ、私どもは今に至るまで一生懸命大きい声を出して芸を演じるわけです。

三. 浪曲とはどんな藝か 形態的に

なぜ、曲師、お三味線がお客様の方を向かないで、私の方を向いているか。これが浪曲のもう1つの特徴です。実は、私とまみさんの間には譜面というものはありません。アイコンタクトも取りません。私もお客さんの方を見て、まみちゃん次はなんだよとか言いません。まみちゃんはあるつぶらな瞳で私の顔をじーっと見ていて、私が微妙な合図を送るもしくは私の声の調子によって、あるいは私が突然うなり始めるのを察して、次はこれに行くんだなって瞬間的に対応しています。浪曲は物語を語る芸ですので、落語や講談と同じように人物を演じ分ける。語り部分のことを「啖呵」と言います。歌うような部分、三味線と一緒に走るような部分のことを「節」と言います。次の瞬間、私が節なのか啖呵なのか、節にしてもどの節なのか? 「お前さん、なんでそっちばかり見てんだ? 私の方を見てくれよ」 「お前の方なんか向きたかねえや。なんでそんなこと言うんだ!」というふうに突然に啖呵になった時に、瞬間的に察してその場面に最もふさわしい音を感覚的に奏でます。まみちゃんはいちいち頭で考えてません。耳から入った音がふっと手に行くっていう、すごい特殊技能なんです。



ヨーロッパの人たちにも受けた古典浪曲

今日はですね、ヨーロッパに行った時に聞いてもらった芸を聞いていただこうと思うんですけど、伝統芸能が全然ないヨーロッパに日本の浪曲を持って行った時、すごい心配でした。日本でだって皆さん聞いたことがない。今日、浪曲を生で聞くの初めてって言う人、手を挙げてみていただけますか。あ、すごい! もう圧倒的! 何ですかこのアウェイ感! ……そうですか、初めてですか、分かりました。初めての人に聞いてもらうために、今日はこれだけご説明を申し上げたから、もう皆さん聞く準備はできてると思いますけれども、ヨーロッパの人たちでしょ、どうしようと思って。私は例えば小学校に行く時には、浪曲でシンデレラをやるんです。シンデレラだったら子供たちも全部筋が分かっているから、浪曲でやったって分かってもらえる。シンデレラは世界中で有名な物語だから、ヨーロッパに持ってくるのはシンデレラにしようかなって一瞬思ったんですけど、そんな日和ったことしちゃいけない、文化庁の名前を背負っていく文化交流使ですから、やはり古典を持っていくべきだろうと思って古典を持って行ったんです。今日はこれをやらさせていただきますけど、仙台のある夫婦の物語なんで

す。妻はご家老の娘で仙合一の美人のお貞さん。このお貞さんがなぜか放蕩者が大好きで、仙台藩でも一番の放蕩者と言われている仙三郎直人の押し掛け女房になって、このダメな夫を叩き直すっていう話なんです。つまり、妻が夫を叩き直すっていう話なんです。これをヨーロッパに持って行って、どうかな話通じるかなって思いながら一生懸命やったら、お貞さんが長刀の石突で夫の仙三郎直人をやっつける場面で、ブダペストの市民、ブラボー、ブラボー、ブラボー！なんだ大丈夫じゃんと思って、このお話を今日は聞いていただこうと思います。



芸人にいい芸させるのも客の腕

今日はいろんな話をして、皆さん頭パンパンかもしれないんですけども、浪曲には楽しみ方というのがあります。さきほど申しましたように、譜面ないなかで私と曲師とのセッションなんです。お客さんと私とのセッションでもあるんですよ。お客様には、「掛け声」というのをお願いしたいんです。後でワークショップの時にちょっとやりますけれども、浪曲師が入ってきたら、まずはこう言っていたきたい。「待ってました！」。あんまり待ってなかったかもしれないんですけど、お決まりだと思って「待ってました！」と言っていたきたい。出てきちやってるので、もう手遅れですが。この後、「今日の演題は『仙台の鬼夫婦』、お時間まで」と頭を私が下げましたら、ここでもう1つ掛け声「たっぷり！」。時間切りせずにたっぷりやってくれという気持ちを込めて、「たっぷり！」です。間違っても「ちよっぴり！」と言わないで。いきなり言われてもできないから、やってみましょうか。「たっぷり！」ですよ。はい「たっぷり！」。この戸惑い感は何ですか。もう1回いきましょう。はい「たっぷり！」。こう言ってもらうともう100万力ですよ。あと、一生懸命声出して、ああ盛り上がってるな拍手してやりたいなっていうような部分があったら、惜しめない拍手とともに「日本一！」。初めて聞くのに日本一かどうか分からないと思っても、それこそ袖すり合うも他生の縁ということもございますので、「日本一！」。「日本一！」というのが憚られるなら、「いい女！」でもいいんですけど。「日本一！」、やってみましょうか。はい「日本一！」。ありがとうございます。こういうふうに声をいただくとやる気が起きます。いつもは出ない声を出しちゃおうかなという気持ちになります。芸人にいい芸させるのも客の腕。というわけで、皆さま方の力を頼りながら一席聞いていただきます。

四. 浪曲実演「仙台の鬼夫婦」 曲師：沢村まみ

仙台の鬼夫婦

仙台伊達藩六十二万石の家老職で三千石。砂子三十郎というお方の、一人娘で名がお貞。仙台きつての器量よし。武術もたしなみ、長刀が静流の名人。この人が、家中一の放蕩もの、伊井仙三郎直人という人になぜかぞここんほれ込んで、押し掛け女房にとなった。ところが夫の賭け事好きが収まらぬ。とうとう妻は、私と立ち合って勝ったら金子をあげましょうと賭け事の誘いをかける。それに乗った仙三郎、あつという間に叩きのめされ、くやしさのあまり江戸へ修業に乗り出した。柳生道場で修行を始めた仙三郎、はたして、妻に勝つ日が来るのか？

五. ちよっとうなってみましょう。ワークショップ

では後半もよろしくお願ひします。「待ってました！」。ワークショップの前に三味線という楽器の説明をしたいと思ひます。日本にはいっぱい三味線の種類があると先ほど申しました。今まみさんが持っているのは、太棹という一番太くて大きい三味線なんですけれども、太棹を使う芸には他に民謡の津軽三味線があります。文楽、人形浄瑠璃で使うのも同じなんですけれども、音は全然違ふと思ひます。三味線って、作り方や好みによって音がすごく違ふんですよ。あと、ものすごく生き物の命をいただいているもので、ワシントン条約で輸出入が禁止されているものを使いまくってるため、外国に持ってく時すごい大変なんです。こないだ上海空港で置いていけと言われました。ちゃんと経済産

業省から楽器パスポートという許可を取って行ったにもかかわらず、空港で留められちゃったりとかすごくめんどくさい楽器なんです。そのめんどくさいわけを申しますね。この棹はインド産の紅木という硬い木を使っています。まみさんは棹を爪で押さえています、柔らかい木だとすぐに減っちゃうんです。硬い紅木でも弾き続けるうちに減ってしまい、勘減りと言って一番押さえるツボのところ……ああ、まみさんの三味線もかなり減ってますね。この紅木がワシントン条約で輸出入が禁止されている上に、お金持ちになった中国がこの木を家具に使い始め、元々希少な木が本当に希少になってしましまして、今三味線を新しく買おうと思ったら値段が爆上がりっていう状態でございます。

三味線～生き物の命もらいまくり

それから皆さま、ここの胴に張ってあるものですが一般的に何の皮だと思われませんか？ 猫？ ジャコウネコ？ 猫？ 猫？ 実は今まみちゃんが張っているのは犬です。猫の皮を張る三味線と犬の皮を張る三味線とありまして、長唄とかの小さい三味線の場合猫の皮を張る方が多いんですけども、これは大きくて、しかも浪曲はさっき音色聞いていただいてわかると思うんですけども、バチで糸を弾くだけじゃなくて太鼓のように胴を打つんですね。弦楽器でありながら打楽器でもあり、厚い皮の方が破れなくて済むので犬の皮を張ることが多いです。ただ義太夫の三味線なんかで、やっぱり猫の方が音色がいいんだよって言って猫の皮を張る人もいらっしゃいます。犬にしても猫にしても、国産ではなくてタイから輸入していたんですけども、実はこれも動物愛護の機運が高まって、タイ政府がその皮屋さんを潰してしまっただけで、今日本の三味線は国内にある限りしか皮が使えないんですよ。これも大問題で、皮屋さんが人工皮革や紙やプラスチックでこれに近い音色が出るように研究中で、そういうものを張ってる人もいます。他の動物の例えばオーストラリアのカンガルーの皮なんかどうかって張って見たら、伸びちゃうんです。カンガルーの皮は。山羊とかいろいろ今試行錯誤している最中なんです。だからこれも命をもらってる。あとこの白い駒、これなんだと思いますか？ 象牙。そうなんです。これが一番問題なんです。象牙も輸出入が禁止されておりますので。糸巻や残響をつけるためのさわりに象牙を使う人もいますが、駒は象牙を使うことが多いです。その上、まみさんのバチ。手で持つ部分が象牙です。バチの先の部分、茶色いんだら模様になってるところは何でしょう？ 鼈甲？ 鼈甲ですね。タイマイという亀の甲羅を薄く削ってますけれども、これも輸出入禁止なんです。そして最後に糸でございます。糸は絹。防虫のためにウコンで染めてあり、これも蚕の命でございますので、もう生き物の命をもらいまくりなんです。で、輸出入禁止の物ばかりなので、海外に行く時は大変でございます。バチをこれは武器だろって中国で言われましたし、ウズベキスタンの空港では、これは日本の伝統的なインストルメンタルだって言ったら、そうか弾いてみろとかって言われたんですよ。これ三つ折りの組み立て式なんで、弾いてやるけど組み立てるのに30分かかって言ったら、どうぞ通ってくださいと言われました。



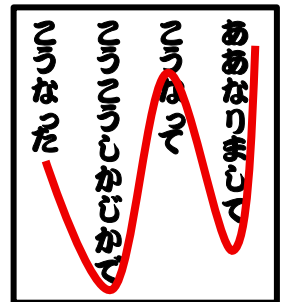
大きい声をお腹から出してイントネーションをコントロール

皆さん、ここからワークショップ行きますよ。三味線には3本の糸が張ってありまして、皆さんから見ると一番上が一の糸と言います。一番太い糸です。真ん中が二の糸、一番下が三の糸です。西洋の楽器の音と三味線の音とはなんか耳の感覚が違うらしくって、カラオケは歌えるんだけど三味線に乗る声が出ないって人結構いるんですよ。まずは一の糸、開放弦でまみちゃんに弾いてもらいますので、一の糸の聞いたまんまの音を出してみてください。はい、オッケーです。じゃあ二の糸。次三の糸。皆さん大丈夫ですね。こういう感じで、三味線の音色に乗る音を出すっていうのが浪曲の基本です。

さて語り芸というのは日本語を喋るんだけど、それを皆さんに物語が分かっていたら好きに喋る。それにはテクニックが要ります。啖呵のお稽古という資料に、4行の啖呵があります。「ああ

なりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」という何の意味もない4行です。この4行をどういうふうに言うかっていうお稽古なんです。まずは普通に日本語として言ってみましょう。「ああなりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」。はい、これが普通に皆さんが言う感じです。これを浪曲風に言ってみますね。覚悟いいですね。皆さん、立ってみましょうか。まず声を出す時に、おへそから5cmぐらい下に指を当てて、この指を押し返すような気持ちでお腹のその部分に息を入れて声を出してみましよう。「うん」、肩は動かさないよ、「うん」、ゆっくり吸って、「うん」、ゆっくり吸って、「うん」。

そういう感じです。馴れない人は喉を痛めないように、とにかく声帯から遠いところでコントロールすると思ってください。お腹の全く使い慣れない筋肉だから最初わかんないと思うんですけども、なるべく下です。私たちは声出す時に、ほとんど股関節に近いようなところでコントロールしてます。本当に深いところじゃないとすぐ喉を痛めちゃうから、下の方から声出すことを意識しながらです。じゃあ私が浪曲風にやってみますから、皆さんやってみてくださいね。「ああなりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」。はい、「ああなりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」。はい、「こうこうしかじかで、こうなった」、ここは難しいんです。日本語の普通の発音のイントネーションを1回取り去って、こういう波を作るんです。さっきの仙台の鬼夫婦をやる時普通に、「仙台伊達藩六十二万国の家老職で3000石。砂子三十郎というお方の一人娘で名がお貞」って言っても誰も感動してくれないんですよ。イントネーションを全部コントロールしていく。だからこれも「こうこうしかじか」じゃなくて、「こうこうしかじか」。なぜこんなことやるかっていうと、何の意味もない4行ですよ。「ああなりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」って言うと、何も意味がないのになるほどという説得力が生まれる。このために通常のイントネーションを取り去って、こういう風にコントロールするわけです。しかも間にお休みを入れない。こういう風に語り芸のテクニックというのは、まず声を大きく、しかもただ大きいだけじゃなくてお腹からの呼吸でコントロールします。身体にもいいですよ。さっきの「うん」、「うん」っていうの1日5分でもやったらダイエットになると思いますよ。私やってる割に全然痩せてませんけど。



いいですか、じゃあ皆さんもう1回私についてきてください。「ああなりまして、こうなって、こうこうしかじかで、こうなった」。これだけでも稽古する甲斐はあると思います。それを踏まえた上でなんと今日は、“浪曲 佐倉市国際文化大学”というオリジナル台本を皆様方にやっていただきます。

六. ちょっと短い浪曲をうなってみましょう

「浪曲 佐倉市国際文化大学」

まずは、お手本をまみちゃんとやってみます。

われながら見事と思うんですけど、浪曲のあらゆる要素がこの中に入っていて、これを覚えると浪曲ができるようになるということです。全員に前に出てきてやっていただくわけにはいかないので、皆様方には掛け声をお願いします。先ほどお稽古しましたけれど、本番の「仙台の鬼夫婦」では、最初の「待ってました！」と「たっぷり！」と最後の「日本一！」だけで、間は皆さん茫然としてましたね。ここでお稽古します。まず浪曲師が出てきたら何でしたっけ？「待ってました！」ですね。お時間まで！と言ったら「たっぷり！」。そして、ちょいと出ましたわたくしは、ここで一声聞いてあぁいい声だな

「ご来場たまりまして、あつく、おん礼申し上げます。
本日の演題は「浪曲 佐倉市国際文化大学」、お時間まで！
ちょいと出ましたわたくしは、おみかけどおりの浪曲師、
玉川奈々福と申します、どごきやうごうねがいます。
夏のはじめのある日のこと、は佐倉市美術館ホール。
「奈々福さん！ 実はおはなしたいことがあるんです」
「どうしたの、佐藤さん、あらたまつて」
「あのう……んも、やっぱり恥ずかっ」
「どうしたの。心配しないで。ちゃんと話してらんなら」
「……そうですか、じゃあ（奈々福に耳打ちする）」
「ええーっ！ あなたそれじゃあ……」
「ちょいつと時間となりました。まずはこれにてお稽古の次幕。」

と思ったら「名調子!」、イントネーションが大事ですよ。そして、どうぞよろしくねがいます、ここで「日本一!」です。

顔の振り方の極意～上下をつける、角度に注意する、視線を定める 📄

今度浪曲を聞く時、落語や講談を聞く時もそうなんですけど、日本の話芸、語り芸では顔を振っているじゃないですか。そのコツ、極意を今日はお教えします。ここに出てきているのは奈々福さんと佐藤さんです。佐藤さんの方が相談を持ちかけてるから、どうやら奈々福さんの方が偉い人っぽいですよね。舞台には上下があり、上手は皆様方から見て右側です。下手が左側です。例えば歌舞伎なんかの時に殿様は必ず上手の方にいます。入り口は下手で、下手から上手の方に入っていくという形。偉い人は上手にいて下手には偉くない人がいる。だから、上手に奈々福さんがいて、佐藤さんは下手から奈々福さんに話しかけます。こういう風に上下をつけます。その時に、「奈々福さん話があります」、



「どうしたの、佐藤さん」と頭を大きく振っちゃうと大変です。身体は動かさなくて顔の向きが例えばこの方向のあの角とするのです。こう、こう、これだけなんですけど、明確に人物が演じられるわけで、これが極意です。実はこれがなかなかできない。しかも、次のセリフ何だっけとか考えてると目が泳ぐ。ちゃんとあそこに人がいるんだと思ってぐっと視線を定めると、もうこの目一発である人上手いなって思っちゃいます。目を定めること、首の角度を気をつけること、上下をつけることです。



はい、やってみたい人? 横に私がいて全部細かく指導しますよ。生の三味線で浪曲ができるというこんなチャンスはなかなかないですよ。あ、いらっしやいました。ありがとうございます。

【二人の学生が壇上で浪曲に挑戦!】

【質疑応答】

Q: 浪曲には天保水滸伝とかの古典がありますが、先生はどういう動機、きっかけで例えばシンデレラといった新しい作品を作っていらっしやるのでしょうか。

A: 浪曲シンデレラを作ったのには明確な意図がありました。30年前に私が入門した時、浪曲界には本当におじいさんとおばあさんしかいなかったんです。浪花節でしょ、どうせ古臭くって眠くて、おじいさんが青筋立ててうなるんでしょというような先入観みたいなものがありました。だから、途中で節を歌ってる時に話が飛んじやっても話の筋がわかる、浪曲のイメージから一番遠いものをそれもちゃんと古典のフォーマットの中に入れて、それで皆さんに受けるかどうかやってみよう、しかも笑いをいっぱい入れてみようっていうのが意図としてあったんです。西洋の物語だって浪曲になるんだって皆さんがびっくりし、その物語が実に面白いっていうふうに作って聞いていただいたのです。今に至るまで、子供たちの前では鉄板のネタになっており、作ってよかったなと思っております。落語や講談に比べて浪曲が強いところは音楽性にあるんですね。仙台から江戸への道中付けのようなところになると、子供たちが踊り始めたりするんですよ。共通の物語で話をしながら進めていける雰囲気があります。

Q: 今おっしゃった古典のフォーマットって何でしょうか。

A: 例えば一番最初はきっかけっていう節の形がありまして、最初はリズムのないきっかけから始まって、その後に節の種類がいくつもあるんです。こういう場面ではこの節、こういう場面ではこの節という形の典型みたいなものがあるんです。それを踏まえていくっていうことです。きっかけ、虎丸節、関東節、セメといった節の種類がたくさんあります。ただ、節もその場面の感情とか今日の声の調子とかによって全然変わってくるので、曲師はいろいろ調整しながら弾いていく感じで、すごいセッション性が高いんです。

Q：海外で日本語でやるとなると、その場面の状況や気持ちを伝えるのはすごく難しいと思いますが、どういう形でやるのでしょうか。

A：事前の打ち合わせが大事で、必ず台本を先に送っておいて翻訳してもらいます。私は日本語のままでも語るけれども、その内容の現地語訳が字幕に出る。そして私も、一部だけ現地語を使います。日本語でやってる最中に突然現地語になると皆さんびっくりしてすごく受けるんです。一番大事なのは、その翻訳してもらったものを1行1行私の口に合わせてオペレートしてもらうことなので、そのテストを前日にするんです。それがピタッと合えばちゃんと物語は伝わる。ただ不安だったのは、筋はちゃんと翻訳ができてれば分かってもらえると思うんですけども、例えばさっきの仙台の鬼夫婦であれば、どういう屋敷であるのか、どういう衣装であるのか、どういう風俗であるのかっていうのを伝えることができないので、そこが難しいんじゃないかと思っていました。ところがブダペストのお客さんは、「何を言ってるんだ。僕たちは黒沢の映画を見てるんだよ」って言われました。映画とか漫画やアニメの先人たちに感謝ですね。

Q：今浪曲師は、男性、女性それぞれ何人くらいいらっしゃるのでしょうか。

A：東西合わせて曲師を入れても、100人に満たないぐらいしかいないです。噺家さんが全国で1000人ぐらいなので、10分の1以下なんですね。正確には分からないですけど、女性の方が多いと思います。昔は圧倒的に男性だったんですけど。ただ落語、講談と違って、浪曲は明治の昔から女性の演者がいたのと、三味線弾きに女性が多いんですね。だから、男女の差っていう意味では落語や講談よりも全然ないですね。女性が楽屋にいることに関して、違和感っていうか差別感みたいなものを浪曲の場合はあんまり感じないです。

Q：先生が浪曲の世界に入られたきっかけは何だったのでしょうか。

A：私出版社で正社員として本の編集をしてたんですけども、なんか飽き足りなくなって、一生続けられる習い事をしたいなと思っていました。会社の近くに日本浪曲協会があって、そこが三味線教室を始めたんですよ。しかも三味線を貸してくれるということで、元々歌舞伎とか大衆演劇とかが好きだったものですから、軽い気持ちでその三味線教室に通い始めたのです。浪曲っていうのは1人ではできなくて三味線が要るんですけども、その当時高齢化が進み後継者が全然入ってこない状況だったのです。浪曲協会としては苦肉の策として、一般に開かれた三味線教室を開き入ってきた若くてやる気がありそうなのをピックアップして引き入れちゃうというミッションがその当時の会長にあったみたいです。そこにうっかり入っちゃったっていうのが事の始まりで、志とか全くなかったんです。

玉川 奈々福（たまがわ ななふく）先生のプロフィール

（略 歴）

神奈川県横浜市出身。1995年曲師として二代目玉川福太郎に入門。師匠の勧めにより浪曲も覚え、2001年浪曲初舞台。2006年美穂子改め玉川奈々福として名披露目。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作浪曲や、長編浪曲も手掛け、他ジャンルの芸能との交流も多岐にわたって行う。平成30年度文化庁文化交流使として、中欧5か国、中央アジア7か国で公演を行ったほか、中国、韓国、アメリカでも公演を行った。

（受賞歴）

2019年第11回伊丹十三賞受賞

（著 書）

『浪花節で生きてみる！』さくら舎（2020年）

『語り芸パースペクティブ かたる・うなる・よむ・はなす』晶文社（2021年）

曲師 沢村 まみ（さわむら まみ）

神奈川県相模原市出身。曲師。歌舞伎や落語、講談などに触れるなかで浪曲に出会い、『浪曲は人間の叫びだ』と衝撃を受ける。沢村豊子の三味線の音色に惚れ、2019年3月沢村豊子に入門。2020年6月初舞台。